

原村立原中学校

-ブロンズ-

原中学校では、例年、卒業記念制作として、卒業生全員の協力を得て、ブロンズ像を毎年1基ずつ制作し、八ヶ岳美術館横の学童生徒彫刻の森に設置しています。

この事業は、昭和55年に八ヶ岳美術館が設立された際、原村の子供たちにも芸術に親しむ心を持ってもらいたい、芸術を創りあげる感性を磨いてもらいたいという願いのもとに行われている、貴重な事業です。

当初は小学校と中学校と1年交代で一つずつモデルとなる像を作り、それを鋳造してもらう予定でしたが、小学生には立体像は難しいということで昭和57年からは、ずっと中学校でモデル像を作っています。

以前は、有志でモデルを作ったり、美術部が代表でモデルを作ったりと、いろいろなやり方でその年のモデルを作ってきました。

現在では、卒業生全員が一つずつ作った塑像（粘土の像）の中から、もっとも優れたものを投票で選び、それをもとに、ブロンズ委員と塑像の作者および有志で、石膏モデルを作るやり方を続けています。また、塑像を作るにあたっては、卒業生全員が、十五歳の心を表した詩を一編ずつ作り、その中の数編を代表作品として残し、塑像のテーマとしています。そして、選ばれた像のテーマとなった詩は、ステンレス板に彫り込まれ、台石に設置されています。



平成26年度 卒業生作品

「個性」

詩とブロンズ像

八ヶ岳美術館